

令和元年度 学校関係者評価

中津市立三郷小学校

1 学校の教育目標

自ら学び 社会で勝負できる知識と体力を身につけ 夢と希望を語れる 三郷っ子

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

2 重点目標・達成指標、重点的取組等

質目・指す力資	重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	学校への意見及び要望
自ら意志を強く持ち行動する力	意志を強基本もって伝え合う	○単元テストで観点別(思考、判断、表現)に8割取れた児童の割合を80%以上にする。(C層児の個人内の成果を10%上げる。) ○「授業中、理由をつけて3回以上、ペア・グループまたは全体で発言できた。」という項目について、児童アンケートで、「よくできた」「概ねできた」と答えた割合を80%以上にする。	学校	○算数の授業の中で「既習事項とのちがい」「児童の困り」を明らかにした授業の設定(授業改善)	○算数科において、既習事項を明記し、既習事項との違いから、子どもたちの困りを出させ、課題にする。	A	○ここ2、3年での子どもたちの成長は大きく、成績にも変化が表れていると感じる。評価し次につなぐことができているのだと思う。これからも教育のプロとして、子ども一人ひとりに対応した適切な指導や支援を望みます。 ※「児童の困り」を毎週末の課題として、児童把握につなげて欲しい。
			学校	○根拠を入れた自分の考えをまとめ、ペア・グループで交流する時間の設定	○1日1回は、自分の考えと友だちの考えを比較検討する場として、ペア・グループ学習に取り組む。	B	※今後の取り組みを進めていただきたい。
			家庭	○家庭学習の習慣化とチェック 宿題に読書タイム10分間を設定	○家庭学習チェックシートに感想を書く。 ○週末、連絡帳に読書記録と感想を書かせる。	C	※読書に興味を持って、楽しみながら読書をして欲しい。学校で図書を紹介や学年ごとの読書タイムに5分でも読み聞かせを進めてはどうか。
			地域	○生活科、総合的な学習の時間で、GT(すすくプロジェクト、森林体験学習)を活用した場面設定	○生活科、総合的な学習の時間における計画をたてる。 ○GTとの打ち合わせ	A	○私自身もGTを支援しているが、打ち合わせもよくできている。
	自相手を思いやり、判断・行動する子どもの育成	○三郷っ子スピリッツチェックカードで、「三郷っ子スピリッツ(1あいさつ 2返事 3言葉づかい 4整理整頓 5時間)◎○」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ○三郷っ子スピリッツがんばりカード(児童・保護者)で、「三郷っ子スピリッツ(1あいさつ 2返事 3言葉づかい 4整理整頓 5時間)◎○」と回答する割合を90%以上にする。	学校	○相手を思いやる子どもを育成する	○全校で、三郷っ子スピリッツ「1あいさつ・2返事・3言葉づかい・4整理整頓・5時間」に取り組む、毎週末にチェックする。 ○学級ごとに毎日児童同士がほめ、認め合う場を設ける。 ○月初めの児童朝会で全校で「ほめほめタイム」を行う。	A	○低学年(1～2年)は、あいさつや言葉づかいが良い。 △高学年は、「少し恥ずかしさ」が出ている。 ※継続して取り組んでいただき、身につけて欲しい。 ○お互いにほめ、認め合う場があることで、個々の良さに気づき、友だち同士の絆が深まる。自尊心も高まるし、それ以外の面にも良い影響を与えたいと思う。先生方も加わって欲しい。
				○自分の思いや感想を自分の言葉で伝える子どもを育成する。	○児童朝会や遊び集会、掃除、学級などで感想を伝える場を設ける。(月1回以上は全員発表する。)	A	○自分の意見を発表することが、日常的にできるようになってきているように感じる。今後も力を入れていただきたい。 ○2学期の目標に「分からなくても手を上げる」と書いている子がいた。子どもたちの努力に感動しました。 ※静かに相手の話を聞いてあげる力も同時に育てていただきたい。
			家庭	○家庭内での三郷っ子スピリッツを励行する。	○PTA保体校外指導部会を中心にしたあいさつ運動に年1回は参加する。 ○年6回「スピリッツがんばりカード」の取組に参加し、感想を書く。	A	
			地域	○あいさつ・声かけ運動を推進する。	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもたちの様子について、学校に伝える。(学期に1回アンケート)	A	○地域の人は、子どもたちのあいさつが良いとほめています。
	体力向上の必要性を感じ育が成ら	○児童アンケートで、「自分の体力向上のために三郷チャレンジに取り組めた」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○3学期末のソフトボール投げの計測で、全学級の平均が全国平均を上回る。 ○自己評価アンケート(児童・保護者)が「健康の必要性を学びながら体力向上を目指すことができた」と回答した割合を80%以上にする。	学校	○体カテストの結果をもとに、学期ごとに指定した三郷チャレンジ(強化プログラム)を実施し、成長を実感させる。	○学期ごとに1種目の強化プログラムをGM・F(グッドモーニング・フィットネス)や体育の時間に実施し、どの活動で成果があったか自分たちで気づかせる。 ○ソフトボール投げの成果を学期に1回ドッジボール大会で発揮することで、子どもの取組の意欲づけとする。	A	※体カテストの成績向上に期待します。
				○GM・F(グッドモーニング・フィットネス)でバトンスローを毎日行い、計画的に投げる練習に取り組む。	バトンスローの工夫(角度や色など)により各学期での自己目標を設定させ、達成に向けた状況を可視化する。	A	
			家庭	○家庭では、子どもの健康や体力向上のために生活習慣を見直すことを実践する。	○生活チェック週間は、特に「メディアコントロール」、「親子で体カトレーニング」に協力する。	A	※各家庭の事情もあると思うが、具体的な評価をして、取り組みにつなげて欲しい。
			地域	○体力強化での学習支援 ○体育的行事への応援	○体育環境の支援に参加・参画する。(運動場の整備、器具や道具の整備など)	B	※各家庭の事情もあると思うが、具体的な評価をして、取り組みにつなげて欲しい。

学期を終えての成果や課題、及び次学期(次年度)へ向けての具体的取組について記入する。